



「多久から発信！SDGs⑨」

「平和と恕の心」

「8月15日は何の日でしょうか」と尋ねられたら、みなさんは何と答えますか。昭和20年8月15日。今から77年前のこの日、日本がポツダム宣言を受諾し、太平洋戦争(第二次世界大戦)は終了しました。厚生労働省の資料によると、この大戦による日本の死者数は軍人230万人、民間人80万人とされています。当時の方々に思いを馳せると、その悲しみはどれほどのものであったか、容易に想像できると思います。

多久市子どもたちは「平和」をテーマにさまざまな活動に取り組んでいます。この夏に実施予定の9年生の修学旅行では、広島や南九州を学習地として活動し、平和の尊さを体感します。この修学旅行に至るまで、義務教育学校では、校内での平和学習に加え、大刀洗平和記念館(福岡県)の見学や長崎市での現地研修を行い、学びを積み重ねています。

このような学びを通して、平和を希求し、お互いのことを大切に思う人に育ってほしいと願っています。

孔子は、人生で一番大切なことは「恕」思いやり」の心であると言っています。8月15日は終戦記念の日。恕の心と重ねて、この日を過ごしたいと思えます。



連載

野の仏ギャラリー 39

馬頭観音坐像

多久町

光背・坐像・蓮華台が石に彫られ、光背には縁取りがあります。顔は正面と左右に計三面あり、正面は怒りの表情です。正面の逆立つ頭髪上に馬頭があり、額に第三眼があります。手は馬口(頭)印を結び、腕・手首に釧を着け、右膝を斜めに立てています。光背の左右それぞれに三手が刻まれ、左二手は法輪と瓶、右二手は剣と斧を持っています。馬頭観音は観世音菩薩の変化観音で、六観音の一つです。

銘「御願成就馬頭観世音多久村石洲分施主陣内菊一全サキ二昭和十年九月吉日」



○頭上の馬は悪魔を下し、煩惱を砕く象徴とされます。また、馬頭観音は馬の守護ともされます。
○馬口(頭)印は馬の口を模したとする説があります。
多久市郷土資料館長 藤井伸幸

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆ 毎日が聖なる日々と思うから
僕は時間を無駄に出来ない
野崎 隆幸
- ◆ 堀のごと 深き我が家の池に落ち
儂なく逝きしおとうと三才
浦野 嘉恵
- ◆ 水張田 若苗豊かに育ちおり
農夫の背中に安堵感見ゆ
梶原恵美子
- ◆ 外地経験 豊かな先輩に支えられ
日中友好盛りあがりし頃
尾形 節子
- ◆ 次つぎに 蒔かざりし花庭に咲く
凌霄花の花は燃えたつ
川浪 信子

俳句 《大石ひろ女選》

- ◆ 海風の渡りゆく丘 枇杷熟る
富樫 明美
- ◆ 草刈つて 大の字に寝る 奥座敷
本村 則子
- ◆ 単線の心地良き揺れ 濃紫陽花
おおやはな
- ◆ 梅雨の家の 鯉のはねたる 留守居かな
武富 律子
- ◆ 柿若葉枝の向かうの 青い空
中嶋 清子

川柳 《多久川柳会 互選》

- ◆ おおらかに 生きよう空は 晴れている
西山 残月
- ◆ 紅葉を 松の緑は 知らぬまま
井上 東子
- ◆ 忘れては ならぬ戦を 子に語る
大谷 和子
- ◆ 古い二人 緑茶で 午後のティータイム
田中 正春
- ◆ 西瓜みな 鳥ちゃんからのお裾分け
中尾 和弘